

一、自四月二十五日 至五月十一日 中頭郡浦添村附近 戦止

浦添村防衛隊の浦添村前田ニ於テ第一中隊ヲ第六十

旅團ニ配属シ浦添村所波草附近ニ陣地ニ配属ス

主力(第一中隊)ハ依然テ第六十三旅團ニ配属シ浦

添村前田ニ在リテ主トシテ浦添村附近ニ陣地ニ配属ス

戦止ニ協カス(後ニシテ)現在線ガ軍ノ主攻隊ニシテ

判明セリ

五月四日ヲ期シテ總攻軍ヲ開始ス(主軍命令アリ夫々部署ニ着キタルモ我が空軍ノ援助ナク遂ニ之ガ中止シテナキニ至リ) 又ハ残念ナリ。

五月七日、敵主力、仲間、阿波等<sup>（山形）</sup>重兵ヲ指向シ来リ第六  
十四旅<sup>（山形）</sup>、吉野ヲシテ旅团长以下陣地ヲ死守スベキ企圖  
アリタル為第一中隊、中隊長以下敵<sup>（山形）</sup>包圍下ニ在リテ、壯烈ナル  
戦死ヲ遂ゲタリ。

一方伊江島ニ在<sup>（山形）</sup>テハ四月二十一日敵約一師團上陸ヲ開始  
シ所在<sup>（山形）</sup>至<sup>（山形）</sup>。第一大隊（歩兵約一師團）速行砲一<sup>（山形）</sup>中隊、M<sup>（山形）</sup>一<sup>（山形）</sup>中隊  
トシテ戦シ、五日迄戦斗結果我が部隊ハ遂ニ全員  
戦死アリ<sup>（山形）</sup>。特ニ四月二十六日<sup>（山形）</sup>、且取後迄奮戦セシハ獨立隊  
中隊長大塚<sup>（山形）</sup>トシテ、ヲソク<sup>（山形）</sup>陣亡ス。

五月十日、軍<sup>（山形）</sup>ハ日王復廊陣地ニ據リ、兵丸原、那覇ノ線  
ヲ確保ス。夕部隊ヲ整理シ、敵ノ包圍ヲ突破シ、針防衛隊  
地タル有<sup>（山形）</sup>、行進ス。

一 自五月十二日  
至五月二十七日

首里市附近ノ戦斗

(附圖三)

首里復原隊は、首里市儀保所台上ニ於テ石部隊  
独立歩兵ノ二十二大隊ニ配属サシ。獨様。亦四大隊長ハ左翼  
第一隊中隊ノ第三中隊ヲ合セ指揮シ。未吉お  
マカビお 附込ニ於テ戦斗ヲ續行ス。  
各戦線共ニ敵 強圧ヲ受テ。我が方ノ損害甚大ニ状能  
タルモ。常ニ天祐神 助ヲ頼ミ。極力敵ノ攻勢ヲ激撃  
セルモ。大勢カハ不利ニシテ。那覇高橋等及英名厚ノ両  
重要所地突破セラレ。首里ハ徹チ包圍ヲ受ケル状能  
ナリ。此處ニ於テ。石部隊及配属部隊ハ師團長以下

玉碎ヲ覚悟スル所アリ。陣地ヲ死守シテモ軍ハ尚  
持ス戦ヲ作意シ。島尻方面ニ前進ヲ命ゼラル。

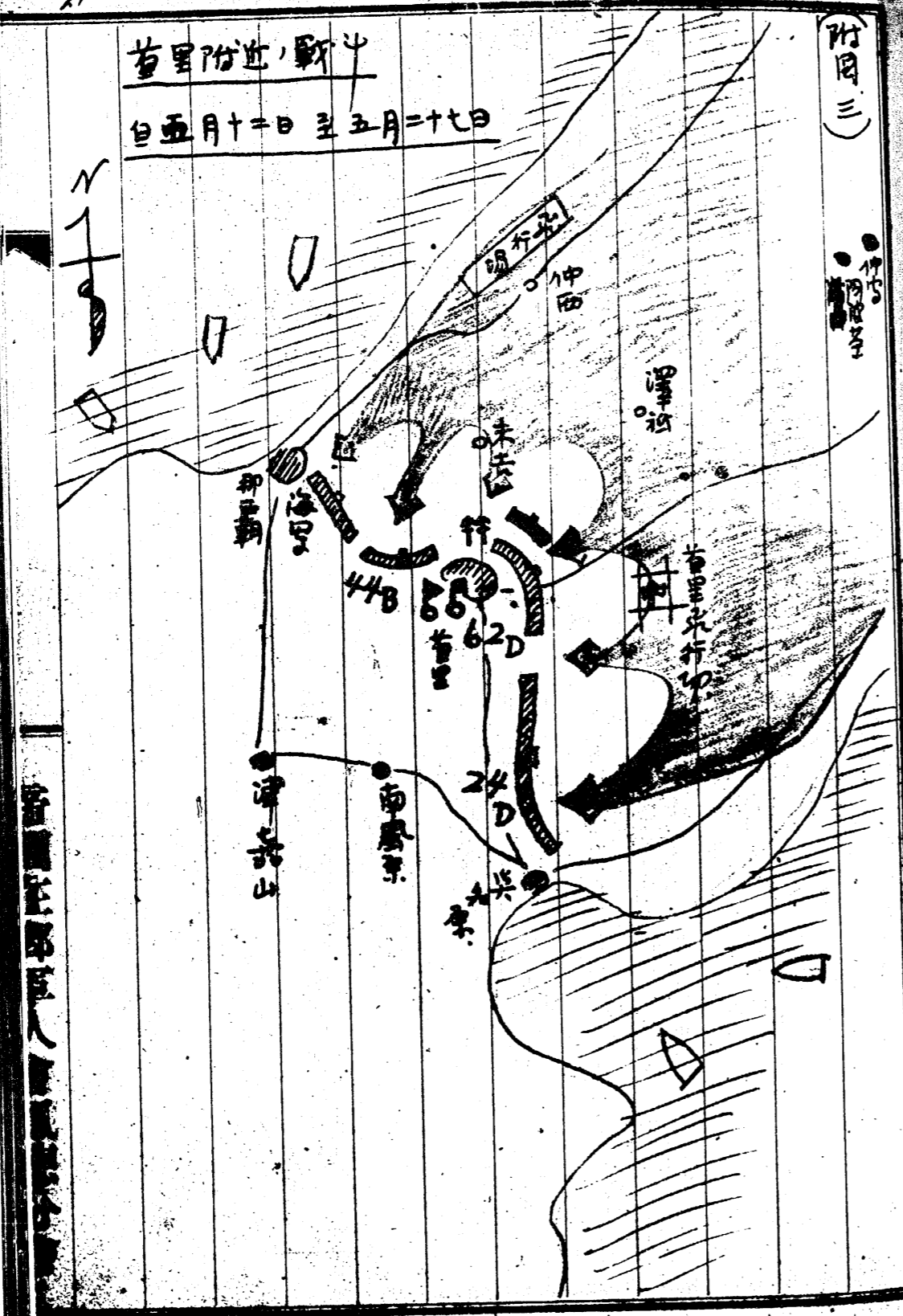
五月二十七日夕刻。獨核四大隊ハ石ニ三大隊ノ配属ヲ解カ  
レ。石一三大隊ニ續行シ。首里ヲ撤退ス。

当時、我が部隊ノ兵力、戦々約三〇。九ニシテ、使用一  
能タル核筒銃ニナリ。此ノ時、新ニ師團ヨリ、軽核筒

銃三、擲弾筒三ノ交付ヲ受テ、携ハセリ。

首里附近、戦中  
自五月十日 至五月十七日

附圖三



首里附近、戦中

一 自五月二十八日  
至六月五日

島尻郡玉城村附近ノ戦ナリ

東海岸英名原ノ主抵抗線ヲ突破セシ敵ハ島尻郡  
南部ニ突進セントスル狀勢カニマリ之ガタメ知念半島  
ニ行進セン猥立混成方四十四旅團ハ包圍セラレタルノ  
我が部隊ハ予六十三旅團長中島徳太郎中將指揮ノ  
下ニ玉城村附近ニ行進シ敵ト交戦ス  
六月三日<sup>以降</sup>軍ノ島尻行進ノタメ後衛收容部隊外トナリ  
急進セル敵ト交戦シ、六月五日夕刻名城村ニ到着シ  
南下スル敵ヲ激撃セリ

島尻郡軍人會風潮分會

一、自六月六日  
至八月十五日(終戰) 島尻戦斗(附圖四)

軍ノ島尻ニ於テ陣地ハ<sup>北面</sup>右支突44B 左支突24D 中央後62D  
及配属部隊ノ態勢ニテ何レモ北月水陣地ニテ且ツ島尻方  
面●~~陣地~~陣地ナリ、常ニ敵艦船ノ嚴重ナル監視ヲ行フ  
艦砲射撃ヲ受ツ、尚南下セル敵陸上部隊ト戦フ  
交ヘルガ如キ苦戦ヲ續行セリ。

特ニ六月十五日以降ニ於テ敵ノ空爆艦砲迫重砲ノ集中  
火ヲ受テ連日戦死傷者續出シ、軍ノ崩壊目シ、間  
ニ迫ルガ如キ状態ナリキ。

我が部隊ハ六月六日以降、島尻ニ於テ石部隊ヲニテ大隊ノ

指下二死 独核四大隊長ハ左方一隊中隊クハニ中隊  
 才三中隊才五中隊 指揮シアリタルモ六月十八日敵總攻  
 出部隊死傷者濃クシ部隊間ノ連絡ト絶ル共ニ上級  
 部隊 連絡不能トナリタルハ此處ニ於テ我が部隊ハ師  
 団上級部隊トシテ決意シ師団司令部ニ復歸セントスモ師団  
 司令部 所在不明ニシテ遂ニ六月二十二日敵ト交戦ノ  
 結果大隊長以下全員切込突撃ヲ行フ四散シ遂ニ全  
 員戦死セリ

尚上級部隊ニシテモ軍司令部參謀長師団長等六十三名  
 戦死セシ事ハ判明ナリ

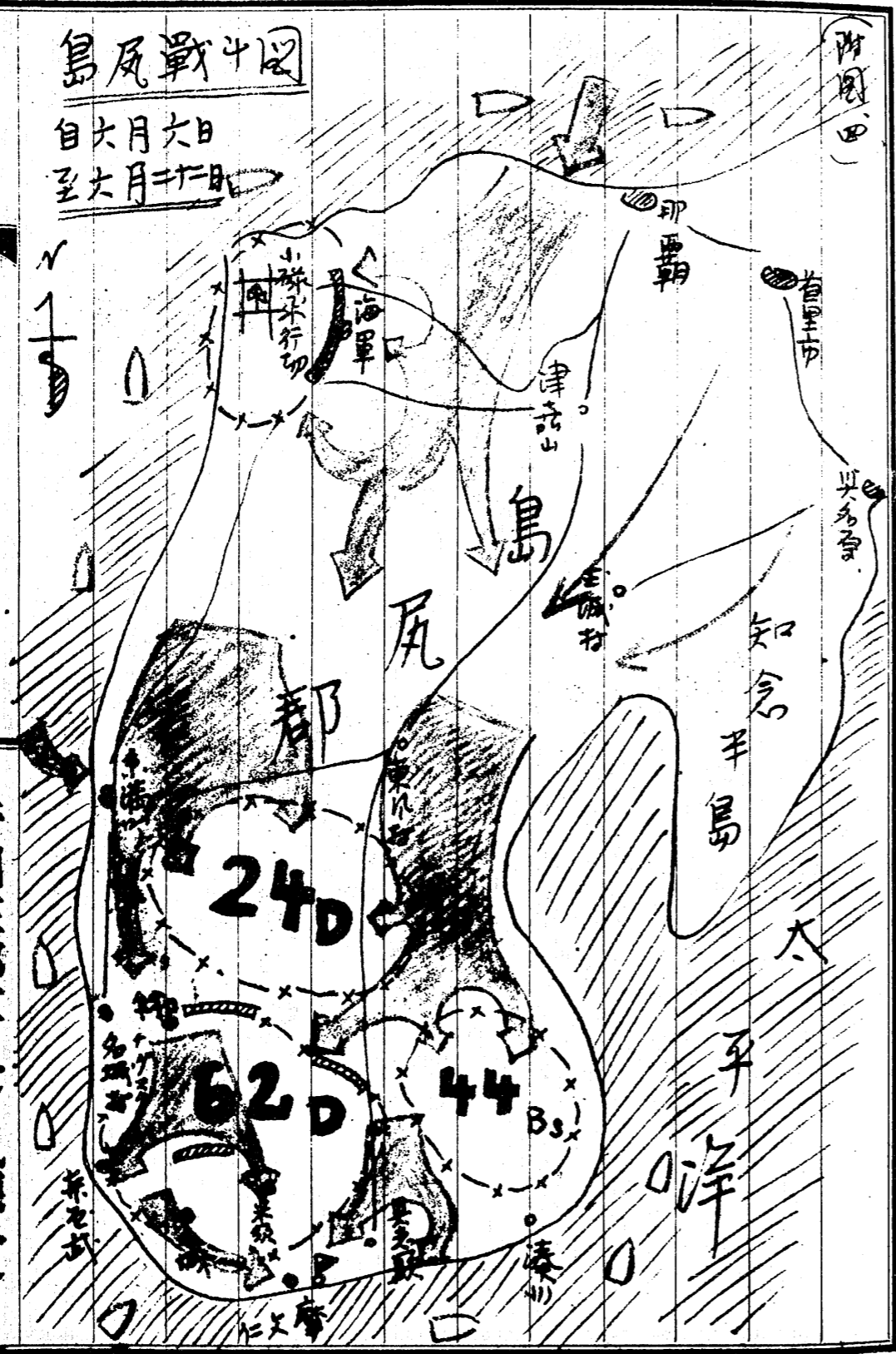


10

# 島尻戰鬥圖

自六月六日  
至六月二十日

(附圖四)





敵潜水艦の出没ありし。魔の海峽を渡つたのである。  
我が部隊は沖泥岬を第一陣として早朝司令官平島満中將  
麾下の潜水艦を以て隊列第一に編入し、日夜は結構  
築き、書道練習、とくどであった。  
果てはサイパン硫黄島を襲ひ、~~本隊は西~~太平洋の  
黒潮を席捲しつゝ、大塚初少将を以て船艦相合せし  
船を祝慶し、刻一刻沖泥岬をぐる回遊に迫つたのである。  
飛電一因我が聯合艦隊の消息は如何なるか  
敵艦をゆくやうな警戒を要し、十萬陸海軍兵は、かや湯  
こぼり、意気正ん天を衝き、殉忠一躍の熱血は沸か  
沸かぬやうである。

昭和二十年三月二十四日、全南西活島におし

「天一号」は既に開始の大号令は最長と云ふ  
大船中道中は完了ししんくあり

改むは之世思文明の精粹を凝縮し大なる物量と  
英大工の匠は其器を満載しおきの船中隊を  
以て固めたる一千五百隻の大艦隊其の前後を  
固く陣隙中艦隊幾千艘

此の敵我多討たづんは後めは良く討ち得る  
水運の事草草たる事運中の舟は湖毛に比ぶる大  
の艦の比置此五死ふんと山に峰へ海に待つ島  
十萬大平洋の波花に高く風雲愈々を  
各一人十殺一艦一艦山より相言まふ金多花は  
萬の打撃隊精神の燃え殿と凱來暗雲を望んで





懐かしの秋の夜  
思はくは  
新入の  
即

和二十一日十日

於京都 大徳寺本山芳春院 正次

鳥取

7/310

獨立機関銃第四大隊  
大隊長

昭二〇六三四戰死

前少佐  
後中佐

陶山勝章

佐尉官

一 昭和十九年九月三日、中尾本島那覇港上陸、爾末同島防衛並ニ作戦準備、  
 一 自昭二〇六三三、中尾本島、戦斗ニ参加、  
 一 自昭二〇六三四、中頭郡宜野湾村附近、戦斗ニ参加、特ニ部隊ハ最初ヨリ  
 一 自昭二〇六三五、中頭郡宜野湾村南端附近、陣地ヲ固保シ、  
 一 亦六十三師團亦六十三旅團ニ属シ、宜野湾村南端附近、陣地ヲ固保シ、  
 連日優勢カナル敵部隊、攻撃ヲ阻止シ、敵ニ多大ノ損害ヲ與ヘタリ、  
 此、向、我カ方損害續出シ、死傷者部隊大半ヲ占ムルニ至ルモ、屈セズ超砲爆  
 一 下、巧ニ部隊ヲ統率シ、常ニ獨歩ニ四大隊、獨歩ニ三大隊ト密接ナル協力ヲ下ニ  
 一 亦一線部隊、骨幹トナリ、重大器部隊、威力ヲ遺憾ナク發揮セリ、  
 一 特ニ此、向、戦斗ハ激烈ヲ極メ、敵ニ與ヘシ戦果甚大ニシテ、戦斗功績亦偉大ニシ、  
 一 武功、拔群ナリ、昭和二〇、四、二〇、亦六十三師團、既屆部隊トシテ、終戦狀授與ス、  
 一 自昭二〇、四、二五、浦添村阿波茶前田附近、戦斗ニ参加シ、特ニ亦一中隊ヲ  
 一 獨歩ニ三大隊ニ配属セシ、所波茶台上、重要據点ヲ確保セシ、殊勲ヲ奏シ、  
 一 遂ニ亦一中隊長以下、同中隊全員ヲ失ヒタリ、部隊主力ヲ以テ、前田西側高地ノ  
 一 重要據点ヲ確保シ、亦一線戦況甚ニ重要戰訓ヲ上級部隊ニ報告スルト  
 一 共ニ敵ニ與ヘシ損害甚大ニシ、其、武功、拔群ナリ、





功績賞状  
 昭和五年五月十一日  
 佐尉官  
 吉川 密 雄

三 重

3  
310

獨立機南銃力四大隊  
 亦三小隊長

昭三、五、一、戰死

少尉

吉川 密 雄

一、昭和三九、九三〇、沖繩本島那覇港上陸、爾來同島防衛並ニ作戰準備、  
 一、自昭三〇、五、一、沖繩本島戰ニ參加、  
 亦六十二師團亦六十三旅團ニ属シ、中頭郡宜野湾村南端志蓮志附近、軍力一線、  
 重要據点ヲ確保シ、任ジ、四月二日以來、優勢ナル戰車群ヲ有ル敵大部隊ノ攻撃、  
 ヲ阻止シ、特ニ在獨歩一三大隊ト協力シ、緒戰ニ於テ敵戰車數輛ヲ擱座シ、自ラ敵中、  
 ニ突入シ、敵自働小銃其ノ他ノ兵器ヲ占領シ、善戰敵中ニ陣地ヲ確保セリ、  
 特ニ此、戰中ニ於テ核筒銃彈ト雖モ至近距離ニ於テ戰車ヲ擱座セリ、得テ重要戰訓、  
 確信ヲ得、以テ軍全般ノ作戰ニ莫大ニ功大ニシテ、其ノ武功拔群、  
 昭和三〇、四、二〇、亦六十二師團同配属部隊トシ、感狀授與サレ、ト共ニ、  
 昭和三〇、四、二〇、亦六十二師團長ヨリ、個人賞詞授與サレ、

爾來浦添村前田西側高地ヲ占領シ、附近戰中ニ參加シ、敵ニ多大ノ損害ヲ  
 與ヘタリ、遂ニ五月十一日、同陣地ニ於テ壯烈ナル戰死ヲ遂ゲタリ、

福井

4/310

獨立機關銃第四大隊  
第一中隊  
第二小隊長

昭二〇、五七、戦死

少尉

宮川

李治

一 昭二〇、九三、非獨本島那霸港上陸、爾來同島防衛並ニ作戦準備  
 一 昭二〇、三三、沖繩本島戦ニ参加  
 一 昭二〇、四三、中頭郡宜野湾村八五高地及嘉敷附近ノ戦ニ参加シ、特ニ  
 一 昭二〇、四三、第六十三旅團ニ属シ独歩ニシテ大隊ノ重要據点タル嘉敷高地ノ守備ニ降シ部下  
 一 昭二〇、四三、小隊ヲ指揮シ、死傷續々出スルモ屈セズ、復讐攻撃ヲ阻止シ、適時超砲爆  
 一 昭二〇、四三、ヲ敵ニ歸戦陣地ニ據リテ多シク砲火ヲ以テ、敵ヲ殲滅セリ。本戦ニ於テ敵ノ損  
 一 昭二〇、四三、害甚大ニシテ、稀ニ見ル大戦果ナリ。此レ實ニ指揮官ノ指揮適格ニシテ、重火器ノ  
 一 昭二〇、四三、威力ヲ遺憾ナク發揮セルモノニシテ、一般ノ尚書員ノ的ナリ。  
 一 昭二〇、四三、第六十二師團同配属部隊トシテ感状授賞サル。  
 一 昭二〇、四三、至昭二〇、四三、漸次打撃ヲ受テ、戦中ニ参加シ殊勲ヲ奏ス。  
 一 昭二〇、四三、特ニ昭二〇、四三、第六十四旅團獨歩ニシテ大隊ニ属シ、阿波茶台上ノ確保ヲ命ゼラレ、連日優劣力  
 一 昭二〇、四三、タル戦車群ヲ有ル敵ノ攻撃ヲ阻止シ、超砲爆下巧ニ部下ヲ指揮掌握シ、敵  
 一 昭二〇、四三、中、遂ニ五月七日、庫地確保シテ、戦死セリ。  
 一 昭二〇、四三、昭二〇、五三、獨歩ニシテ大隊配属中隊トシテ感状授賞セリ。



佐尉官

京都

310

獨立機銃第四大隊  
第二中隊長

昭三、六、三、戰死

中尉

松尾俊二

一、昭和九年三月、沖繩本島那覇港上陸、爾來同島防衛並に作戦準備、  
 一、自昭二〇、三、三三、沖繩本島戦に參加、  
 一、自昭二〇、四、二六、中頭郡宜野湾村附近、戦に參加し殊勲ヲ奏ス。特ニ部隊ハ  
 第六十三師第六十三旅團ニ属シ、中隊ハ主トシテ獨歩一四大隊、戦に協力シ、我如古  
 附近、重要據点確保ニ任ジ、連日優勢ヲ示シ、敵大部隊ノ攻勢ヲ阻止シ、常ニ第一線  
 部隊ノ骨幹トナリ、重大器部隊ノ威力ヲ遺憾ナク發揮シ、敵ニ多大ノ損害ヲ  
 與ヘタリ、  
 一、自昭二〇、四、二五、浦添村前田附近、戦に參加シ、特ニ五月四日軍總攻撃ニ際シ、  
 同地重要據点ヲ固守シ、敵ニ多大ノ損害ヲ與ヘ、武功抜群ナリ、  
 一、自昭二〇、五、二二、首里市復原陣地、戦に參加シ、儀保町台上ノ重要據点確保ニ任  
 主トシテ、未だ方何ヨリ攻撃ヲ受ルニ、敵優勢部隊ヲ遠ヘ激戦戦中ニ之ヲ阻止シ、殊勲ヲ奏ス、  
 一、自昭二〇、五、二八、島尻方面ノ戦に參加、軍最後ノ據点タル島尻南部ノ防  
 衛據点トシテ、名城打海岸及同高地ノ確保ニ任ジ、連日優勢ヲ示シ、敵ト交戦  
 陣地死守ニ任ジタルモ、六月二十二日遂ニ敵ノ戦車群ハ包围ヲ受テ、壯烈ナル  
 戦死ヲ遂ゲタリ。

岐阜

7/310

獨立機團第四大隊  
第三中隊長

昭三、四、三、六、戰死、前中尉

小川 勇

一、昭和一九九、三、〇、沖繩本島那霸港上陸。  
 一、自昭三〇、三、二、三、沖繩本島伊江島戰中、參加殊勲ヲ奏セリ。  
 中隊、八島防衛部隊、獨混四四旅團、井川大隊、三屈シ、沖繩方面最重  
 要航空基地タル伊江島、守備ニ就キ、四月十六日以來、優勢ナル敵大部隊  
 ノ上陸ト同時ニ、超砲爆下巧ニ中隊ヲ指揮、守備シ、城山、重要據點、莫ク確保ニ  
 任ジ、一部ヲ以テ、學子校、有司、地ノ爭奪戰ニ參加セシメ、敵ニ多大ノ出血ヲ強要シ、  
 優勢ナル敵ノ攻勢ヲ退却セリ。  
 特ニ四月二十日、同島守備部隊最後、惣攻撃ニ參加シ、部隊、骨幹トシテ、重火  
 器、威力ヲ最高度ニ發揮シ、勇戰最中セシモ、四月二十六日、遂ニ中隊長以下全隊  
 戰死ス。

戰死ス。

京都

昭和三十九年

獨立機関銃第四大隊  
第二中隊長

昭和三十九年六月二日戦死

少尉

藤田二郎

佐尉官

一 昭和十九年九月三日 沖繩本島那覇港上陸兩業同島防衛並ニ作戰準備

二 自昭三十九年六月二日 沖繩本島戦ニ参加

三 自昭三十九年六月二日 中頭郡宜野湾村附近ノ戦ニ参加シ我如古附近ノ重要據点

確保ニ任ジ獨歩一大隊ニ協力シ連日猛砲爆下戦死傷者續出スルニ屈セス巧

却下ヲ指揮掌握シ勇戦敢斗敵多ク損害ヲ與ヘ優勢ナル敵ノ攻勢ヲ阻

止シ重火器ノ威力ヲ遺憾ナク發揮セリ。

四月二十日第六十二師團及同既居部隊トシテ感状授與セリ。

二 自昭三十九年五月二日 浦添村前田附近ノ戦ニ参加シ前田高地ノ確保ニ任ジ殊勲ヲ奏ス。

三 自昭三十九年五月二日 首里市復原陣地ノ戦ニ参加シ儀保町上ノ確保ニ任ジ殊勲ヲ奏ス。

外 自昭三十九年八月八日 島尻方面ノ戦ニ参加シ特ニ單最後ノ據点防衛ニ際シ

名城打附近ノ重要據点ノ確保ニ任ジ連日優勢ナル敵ノ攻勢ヲ阻止シ

シガ遂ニ六月十一日 歴戦ノ功ヲ樹テ戦死セリ。

京都

9/310

獨去機團第4大隊  
本部付主計

昭二六三三戰死

前大尉

中西清

部隊名 備 兵 機 関 銃 砲 兵 佐 尉 官

一昭二九九三。沖繩本島那覇港上陸爾東同島防衛並ニ作戰準備  
 一昭二〇六三三。沖繩本島戦ニ参加ス  
 一昭二〇四二四。中頭郡宜野湾村附近ノ戦ニ参加シ殊勲ヲ奏ス。特ニ部隊ハ  
 一昭二〇四二四。敵上陸以來傳教カニ機械化部隊ヲ攻撃シ糧所ニ激撃シ敵  
 ニ多大ノ損害ヲ與ヘシタルハ各重傷時後ニ適時彈藥糧秣ヲ補給シ以テ戦機ニ  
 投ジタル成果ニテ主計大尉ノ作戰準備向ノ通シ周到ナル計畫下ニ万難ヲ  
 拂シ各所ニ堅固ナル彈藥庫糧秣庫ヲ設置シ以テ類砲爆下果敢ニ之ヲ補給シ  
 務メ兵員ヲシテ後顧ノ憂無クシタルノ之實ニ部隊ハニテ教日ノ長期向互リ陣地ヲ  
 固守シ得タル一大要素ト云フベク其ノ武功拔群ナリ。  
 昭二〇四二四。同配属部隊トシテ感狀授ケサレ。  
 昭二〇四二五。浦添村附近ノ戦ニ参加シ偉功ヲ樹ク。  
 昭二〇五二五。首里市復讐陣地戦ニ参加シ偉功ヲ樹ク。  
 昭二〇五三六。島尻南部方面ノ戦ニ参加シ偉功ヲ奏セルモ六月二十日、遂ニ  
 昭二〇五三八。戦死セリ。